

大変なお母さんたちの手助けを！

ピッコロ提供会員 山本 祐庸さん

退職後、温泉やゴルフを楽しんでいましたが、70歳で自動車免許を返上し、活動範囲が狭くなりました。ボランティアを始めたいと思い、市で紹介されたのが「NPO法人 子育てネットワーク・ピッコロ」でした。自分の子育ては妻に任せっきりでしたが、K-net 子育て広場等で、大好きな子どもたちと触れ合っています。泣いていた赤ちゃんが、自分の抱っこですやすやと眠りにつくと幸せを感じます。時代が変わり、今のお母さんたちは大変です。そんなお母さんたちの手助けができたらと思います。

(竹下)



あなたの「選択」
教えてください

インタビュー ミスター Mr.スクエアを 探して



「男らしさ」に縛られることなく、自分らしく生きているメンズリブの中村さんや、清瀬の男性たちをご紹介します

私は仲間とメンズリブという取り組みを始めました。私は、1989年(平成元年)を「男性学元年」と名付けました。男の悩み相談の窓口を開設しました。女性たちがウーマンリブの声をあげてから、数十年遅れて、男たちの自分探しを始めることができました。

双方の活動が相まって「男女共同参画社会」の実現を目指すことになりました。

いち早く、1989年夏に、読売新聞大阪本社版の生活面で、「男性学元年」というタイトルをつけて、私たちの紹介を記事にしてくれています。

50歳で、勤めていた新聞社を退職して、市民活動に専念することになります。講演活動、大学非常勤講師で糧を得ながら、フリーで活動を続けることになりました。いくつかの行政の男女共同参画審議会委員、男女共同参画センター運営委員にも関わりました。とよなか男女共同参画推進センター・すてっぷ館長、茨木市立太田公民館館長を経て、70歳で公務を降りました。

これで悠々自適、のんびりすると思いきや、ボランティアであります。いま、インターネットラジオのパーソナリティーを始めました。最高齢パーソナリティーとして、番組づくりに励んでいます。競争社会で身につけた生き方を、今もなお、続けています。

しかしながら、生き方探し、見つめ直しを学んだことで、休息タイムを、うまく取り入れていると自負しています。

◆中村さんの著書を、6ページで紹介しています

育士の資格も取りました。

「こういう結婚をする・ああいう会社に勤める」という価値観に意味はなく、型にはまらない生き方でも信念を貫くことはできます。「知識」は蓄積するより惜しみなく分け与える方がいい。ワークライフバランスとは「時間」と「お金」をうまく使うことではなく、自分や家族、職場での「情操」を整えるのにとても有効なものではないでしょうか。

(桑山)



自分の中にある無意識な男性への期待に気づきました。相手を変えるには、まず自分から。私たち女性の意識を変えることも大切ですね。

育休、取ってみたら面白いですよ。

しょうさ
ゆりかご幼稚園教諭 古畑 翔悟さん

今は、一家4人の専業主夫です。授乳以外の家事育児はすべてやっています。大変だけど子どもの成長を間近で見られるのは面白いです。育児は、幼児教育に携わる身としても、親としても自分メインでやるつもりでしたので、妻にも自分から申し出ました。実家の親も息子の自分が育休を取ることに好意的で、よく遊びに来てくれます。職場や同僚にも恵まれ、折々に園の様子を知らせてくれます。育休を取って2年半。同僚のママ友とお茶やランチをしたり、児童館にも行きますよ。育休明けの仕事について不安がないとは言えませんが、恵まれた職場に感謝しています。

(川村)

